

## ■ OnAir 3000 ユーザーレポート

株式会社TBS ラジオ & コミュニケーションズ 様

OnAir 3000



### 第2・3・4スタジオを OnAir 3000 で更新



株式会社TBSラジオ & コミュニケーションズ  
編成業務局 技術部  
山田 達郎

#### 第2・3・4スタジオについて

第2・3・4スタジオは、生放送機能を持たない、録音専用のスタジオです。主に録音番組の収録や組み立てで使用されます。同スタジオの放送設備は現放送センターの建てられた1994年より稼働しており、本年度で18年目を迎え、設備老朽の為、それぞれ3月、5月、6月と続けて更新作業を行いました。更新前のスタジオは、技術スタッフも含めて2～3名で作業するのが前提の設計となっていました。現在の運用では制作スタッフが1～2名で収録を行うことがほとんどで、操作性が現在の運用にそぐわない面がありました。また機器類も、数本のハイラックに卓の本体や周辺機器を詰め込んでいた為、操作性やメンテナンス性が悪く、改善をと考えていました。

#### 音声卓の選定

音声卓の選定にあたり重要視したのは、音声卓自体の安定性はもとより、制作スタッフだけでも使いやすいスタジオにするという点です。前述のとおり、昨今の技術スタッフ不在の収録

を基本に考え、制作スタッフだけでも簡易かつ確実に収録できる機能をどれだけ実現できるかが焦点でした。卓の安定性という面では、既に第5スタジオに同じOnAir 3000を導入し、安定運用できていることと、各局への導入実績の多さから、安心して選定できる要因となりました。

#### 操作性

制作スタッフ向けのシンプルな操作面を実現すべく、OnAir 3000の機能をフル活用しました。Snapshotを充実させたのはもとより、EQやCOMPは最初から少しかけておいたり、GATEなどあまり使わない機能はスクリーンから隠したり、エコー用AUXやCOMPなどの良く使う機能は厳選してアサインパネルに出す等して、分かりやすい操作面を実現しました。エコーをかけたリモニターを切り替えたりなどの基本的なことがタッチパネルを使わずにアナログ卓的に出来る点は、デジタル卓に抵抗のあるスタッフでも喜んでもらえています。また、TB系に関しては、使い勝手を考慮し、あえて外部システムで構築しました。

#### レイアウト

スタッフ1人での作業を想定し、ミキサー席から座って手が届く位置にほぼ全ての機器とモニ

ターが並ぶようにレイアウトしました。サブ全体のレイアウトとしては、ビルの構造上もともと窓が小さく暗くなりがちなので、卓面を明るめな木目調とし、高級感と明るさを出しました。OnAir 3000の洗練されたデザインはとても木目に合っていると思います。また、ラックをハイラックから2段のローラックへ変えたことも、サブを広く見せることに一役買っています。スタッフだけでなく出演者からも「広くなった？」と聞かれるほど、圧迫感のない優しい質感のスタジオとなりました。ちなみに、実はこの3つのスタジオ、それぞれ卓面の木目と色がちょっとずつ違います。せっかく3つスタジオを作るので、少し遊び心を出してみました。TBSラジオにお越しの際は是非見ていってください。

#### 最後に

制作スタッフの意見を取り入れることに注力したおかげもあり、実際に運用が始まってからは制作スタッフからお褒めの言葉を戴くことが多く、とてもうれしく思います。細かいところまでアイデアを戴きつつシステム工事を担当して戴いたテクト様、美しい木卓に仕上げた日東紡音響エンジニアリング様、そして、最後までこちらの要望に応じてくださったスチューダー様には深く感謝申し上げます。